

しおんだより VOL.8



万病に効く薬は無いが、栄養は万病に効く

病気の治療にはお薬が欠かせません。昔から使われているいい薬もたくさんありますし、最近、開発される薬は従来とは異なる作用メカニズムを持っており、まさに、画期的な治療法となることも少なくありません。

その一方で、当たり前のことですが、万病に効果のある薬はありません。医師は、病気や状態によって薬を使い分けるのですが、万病に効果のあるものがあります。それが、栄養です。

ご入院の患者さんが、その原因となる病気を治すためには、飲み薬や点滴などが欠かせませんが、その根本には、栄養の充実が必要です。現在の患者さんの状態に合わせた食事の内容だけでなく、胃瘻などから投与する経腸栄養剤についても、専門的な観点から考え、医師とも相談しながらご提供しています。

また、生活習慣病で通院されている外来患者さんの食事指導も予約制で行っています。どんな方にも必要な栄養をサポートするのが管理栄養士です。

思温病院栄養科では、管理栄養士のチームが、ご入院の患者様だけでなく、外来の患者様へも積極的な、栄養指導を行っています！

お口から食べることの重要性

入院されている方が退院できる条件として重要なことは、お口から食事を食べられるようになっていくことです。もちろん、胃瘻や中心静脈ポートなどで栄養を摂取されている方もいらっしゃいますが、やはり、多くの方にとって、お口から召し上がることは、退院に向けた大きなステップになります。

その一方で、入院が必要なほど全身状態が悪化した方は、一時的にせよ食事ができなかつたり、点滴で絶食となることがあります。このような場合には、できるだけ早く経口摂取を再開する必要がありますが、少し時間が経った場合には誤嚥を起こしてしまうことがあります。



当院では、そのようなケースには、歯科の先生にお越しいただき「嚥下内視鏡」をしながら、嚥下の評価だけでなく、実際に食事を召し上がっていただいた時の様子をカメラで観察し、安全な経口摂取再開を目指しています。ここでも、管理栄養士が同席し、1日でも早く食事を再開し退院できることを目指しています。

ご自宅や介護施設にも訪問診療を行っています

当院ではご自宅や介護施設で療養中で、通院が困難な患者様に訪問診療を行っています。また、退院後、継続して当院から訪問診療を行うこともしばしばあり、継続した地域医療連携を行っていくことは、患者様にも安心・安全をお届けできることを実感しています。

訪問診療には、医師、看護師、薬剤師がチームになってお伺いしています。ここに、訪問する薬局の薬剤師が同行していただく場合もあります。在宅医療とは、ほとんどが薬物治療ですので、薬剤師同士の連携も極めて重要になっています。

今後は、入院中と同様に、在宅の患者さんの栄養指導にも管理栄養士が積極的に関与することも、重要になっていくのではないかと思います。



当院の往診車です。鮮やかな思温ブルーのラインが目印です！

しおんだより 第8号 発行日：令和3年6月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp